

【報告事項 1.】 令和 6 年度事業報告の件

令和 6 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もなくなり、対外活動もコロナ禍以前同様、多くの会合やイベント等が積極的に開催された。

令和 5 年 12 月に創立 75 周年を迎えた本会は、その歴史を振り返るとともに、これからの新しい時代における獣医師、獣医師会としての在り方を考え、先へと進んでいく必要があるということを内外に知らせる為、75 周年記念のロゴ入り名刺作成・活用し、また本会 HP にて「東京都獣医師会 75 年の歴史について（web 版社史）」を公開し、1 年にわたって内外に周知を行った。

本会の様々な事業活動を包括する「ワンヘルス」については、前段階として、その意義と重要性も含め、都民や子供達の理解を高めることが重要であるので、東京都教育庁担当課長との面談を行い、ワンヘルスにおける獣医師の役割等を解説し、先行している福岡県での教材を紹介し、どのように教育現場で対応していくべきか協議し、本会として協力をしたい旨を伝えた。

ワンヘルスに係る情報（ワンヘルスという言葉の認知、ワンヘルスの考え方、様々なワンヘルス活動の事例）を広く都民に周知していくための一つの手法として、SNS やインフルエンサー、漫画等の活用を検討し、インフルエンサー関連企業や AI クリエイター、編集者等と面談を行い、効果的な活用方法やターゲットの定め方や課題などを協議した。

ワンヘルス普及啓発委員会の企画により、全国動物愛護週間中央行事・日本獣医師会主催「2024 動物感謝デー in Japan” World Veterinary Day”」にて、ワンヘルス〇×クイズを来場者へ実施し、本会が作成したワンヘルスのリーフレットやノベルティの配布を行い、啓発活動を行った。

さらに、東京都における「ワンヘルス構想」の具現化・条例制定に向け、獣医師・医師が連携することは不可欠であるので、医師会との共同の取り組みとして、東京都医師会・東京都獣医師会合同講習会「人と動物のワンヘルス～動物と共に健康寿命を延ばすには～」を開催した。講師の五箇公一先生からは「生物多様性保全とワンヘルスアプローチ」というタイトルで、環境科学の観点から外来生物や感染症の具体例を交え、生物多様性保全及び持続的社会的構築の意義について講演いただいた。谷口優先生からは分析研究のエビデンスを基に「伴侶動物との生活が人にもたらす健康効果」について講演いただいた。そして、西田伸一先生（東京都医師会理事）からは、「人と動物が共有できるウェルビーイングを目指して」というテーマで、高齢者の幸福維持に、伴侶動物の果たす役割が欠かせないことを具体的な事例と共に講演いただいた。

また、令和 6 年度 3 月には、「ワンヘルスアプローチで考える会」を開催し、日本の獣医療・ペット業界関係者と共に「犬がもたらしてくれる幸福」を広く社会に伝えるために何ができるかを話し合った。1 部、2 部形式で開催され、1 部では石田卓夫先生から「ワンヘルスとヒューマン・アニマル・ボンド」について講演いただき、2 部では課題についての積極的な意見交換が行われた。

前年度に続き会員の声に応じて、動物福祉に配慮した疼痛管理が行えるように、麻薬の入手経路の安定化に向け、東京都や業界団体等への働きかけを継続中である。

また、組織力強化対策の一環として、大規模災害発生直後の会員間の互助システムの構築に取り

組んでおり、間もなく試験的な運用を開始する予定である。

令和7年度の東京都への予算要望の際、小池百合子知事に対し、一部の動物病院で麻薬購入が困難になっていることを情報共有として伝えた。併せて2026年4月に東京で開催予定の世界獣医師会大会開催について、東京都と小池百合子知事の協力を仰ぎたい旨も要望した。

FASAVA2024大会（マレーシアクアラルンプール開催）やFAVA大会（韓国テジョン開催）へも積極的に参加した。更に、本会会員が広く世界の獣医療を知り、他国の獣医師との交流を深めるため、国際学会発表者を支援する企画をまとめた。については令和7年度のFASAVA2025大会（韓国テグ開催予定）から、学会発表をする会員3名分の発表・渡航支援をおこなうこととなった。

また、令和5年度から開始した会員病院の人材採用支援については、令和6年度も継続して開催した。12月に対面形式での合同就職説明会（参加動物病院数：17病院 参加学生数：獣医学生10名 動物看護学生37名）を、3月にオンライン形式の合同就職説明会（参加動物病院数：16病院 参加学生数：獣医学生7名 動物看護学生20名）を実施した。参加病院、学生とも、満足度が高いものとなった。

令和6年度に引き続き、組織率・定着率をあげ、活発な公益・収益活動を行っていくために、会員の視線を重視する定款改正委員会を設置し、様々な視点から議論を重ね、より良い組織改革に向けて邁進した。

継続する公益目的事業としては、獣医療に関する調査研究、小動物獣医療の適正化、人と動物の共通感染症の発生予防・まん延防止、学校動物の適正飼育を通じて児童の健全育成を支援し動物愛護精神を啓発、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した、人と動物のより良い共生社会の構築による動物福祉及び公衆衛生の向上、介助動物の適正飼育支援及びその普及啓発、災害時の動物飼育者支援対策、小笠原諸島や御蔵島等の希少種や繁殖地の保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療及び調査、並びに生命倫理の高揚を図る事業を行った。

中でも、身体障がい者支援事業の「ひかりの箱募金」については、現金での募金の停止を再度告知した。これまでに回収した募金を原資として、令和7年度利用の補助犬診療券150人分（1人当たり30,000円）を発行することとした。

また、賛助会員（100社：令和6年度末時点）と、動物医療業界の発展について考える会議（賛助会員ミーティング）を開催し、分科会にて、4つのテーマ（①飼育頭数の減少 ②獣医療の透明性 ③働きやすい獣医療環境 ④ペットの価値向上）の課題分析とアクションプラン案を作成した。また12月には、大井競馬場にてトゥインクルレースを鑑賞しながら、情報交換会が開催された。賛助会員の明治安田生命の協力を得て実施している「長寿犬猫表彰」では、令和6年度の表彰状については183病院、2,557件の申し込みがあり、またオリジナルアクリルブロックについては、126病院、384件の申請があった。飼い主から大変好評を得ていることから、令和7年度も継続となった。

I 会務報告

1. 役職員の人事

(1) 東京都庁関係：

高橋恒彦 副会長：東京都動物愛護管理審議会委員（2024年6月～2026年5月）
東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員会委員
（2019年7月～2025年3月）

高藤典靖 理事：東京都動物由来感染症検討会委員（2023年2月～2027年5月）

鈴木 博 理事：東京都野生イノシシCSF対策協議会委員（2019年1月～）

平井潤子 前事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（2021年3月～2025年3月）
東京都防災会議専門委員（2023年10月～2024年3月）

(2) 日本獣医師会関係：

村中志朗 前会長：顧問（2023年6月～）

上野弘道 会長：東京地区代表理事（2021年6月～2025年6月）
小動物臨床部会 小動物臨床委員会（2021年6月～2025年6月）
特別委員会 ワンヘルス推進検討委員会（2023年6月～2025年5月）

高橋恒彦 副会長：動物福祉・愛護委員会委員（2021年6月～2025年6月）

中川清志 副会長：職域総合部会 総務委員会委員（2021年6月～2025年6月）
動物福祉・愛護委員会委員 学校動物飼育支援対策検討委員会委員

鈴木 博 理事：産業動物臨床部会 産業動物臨床・家畜共済委員会委員（2021年6月～2025年6月）

藤田道郎 先生：獣医学術部会 学術・教育・研究委員会委員（2023年6月～2025年6月）

平井潤子 前事務局長：危機管理室統括補佐（2023年12月～）
令和6年能登半島地震緊急対策本部アドバイザー（2024年1月～6月）

(3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史 監事：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2021年6月～2025年6月）

(4) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

上野弘道 会長：東京地区代表理事（2022年6月～2027年3月）

中川清志 副会長：監事（2021年7月～2027年3月）

(5) その他：

上野弘道 会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員
（2022年6月～）

高橋恒彦 副会長：小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する審議会委員
（2021年11月～2027年10月）

高橋恒彦 副会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事

(2018年5月～)

中川清志 副会長：社会を明るくする運動 東京都推進委員会委員

入交眞巳 理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事

(2020年4月～)

東京都自然環境保全審議会委員 (2023年7月～)

鳥獣部会委員 (2023年7月～)

鈴木 博 理事：東京都農業共済組合損害評価会委員(2022年4月～2025年3月)

(6) 事務局人事

2024年10月、平井事務局長が退任し顧問となった。この異動に伴い、森事務局長代理が事務局長に就任した。事務局員1名が2025年1月に退局。他、事務局員1名が2024年1月から2025年4月23日迄産休・育休を取得し、4月24日に復帰となった。

2. 本会の活動状況

(1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。定時総会、定例理事会、委員会等を対面形式、オンライン併用のハイブリッド形式、オンライン形式、書面形式にて開催した。

ア. 定時総会：第13回6/16

イ. 定例理事会：第1回5/10、第2回8/5、第3回10/15、第4回12/18、第5回3/11

ウ. 臨時理事会：6/16

エ. 監査会：第1回 令和5年度全期決算監査会5/7、第2回 中間監査会12/16

オ. 会務運営会議：第1回4/30、第2回8/2、第3回9/30、第4回12/13、第5回2/25

カ. 地域職域合同支部長会：6/6

キ. 支部会計説明会：2/9

ク. 倫理委員会：開催していない

ケ. 役員候補者選任委員会：開催していない

コ. 産業動物委員会：3/14

サ. 獣医公衆衛生委員会：第1回10/24、第2回2/17

シ. 都補助 人と動物の共通感染症対策検討委員会：第1回10/24、第2回2/17

ス. 都委託 獣医療広告適正化検討委員会：3/17

セ. 学校飼育動物対策委員会：第1回12/4、第2回3/5

ソ. 危機管理・防災関係：第1回7/30

タ. 広報委員会：第1回4/25、第2回8/6、第3回10/28、第4回1/20

チ. 東京地区三学会対策委員会：第1回5/16

ツ. 表彰審査委員会：4/24

テ. 狂犬病対策委員会：第1回10/3、第2回11/28、第3回2/9

ト. 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会：第1回4/7、第2回7/7、第3回2/16

ナ. 東京VMAT運営委員会：第1回7/30

ニ. ワンヘルス普及啓発委員会：第1回5/20、第2回7/22、第3回3/17

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

ア. 公益認定関係：

令和6年度事業報告及び決算報告の電子申請 (6/30)

令和7年度事業計画及び予算の電子申請 (3/31)

イ. 都庁関係：

都知事令和7年度予算要望 (12/4)

ウ. 日獣関係：

第81回 通常総会 明治記念館 (6/26)

令和6年度全国獣医師会事務・事業推進会議 明治記念館 (7/19)

全国獣医師会会長会議 明治記念館 (9/20)

藏内会長世界獣医師会次期体調就任祝賀会 明治記念館 (9/20)

中央行事屋外行事・2024動物感謝デーin JAPAN 駒沢公園 (9/21)

中央行事屋内行事 国立科学博物館日本館 (9/23)

獣医学術学会年次大会 仙台国際センター (1/24~26)

エ. 関獣連関係：

第1回 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 Gメッセ(高崎) (4/7)

第2回 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 Gメッセ(高崎) (7/7)

第3回 関東・東京合同地区獣医師会理事会・監査会 エテルナ高崎 (2/16)

令和6年度関東・東京合同地区獣医師大会 三学会 Gメッセ(高崎) (9/1)

令和6年度獣医事功績者表彰候補者は以下の通り

<A 会員2名>

豊田 佐代子 (武蔵野三鷹支部)、黒須 幸雄 (江戸川支部)

<B 会員8名>

三宅 肇 (動物薬事支部)、仲野 博志 (橄欖支部)、橋本 栄光 (中央支部)、
花田 道子 (中央支部)、田中 吉春 (生物医学支部)、古賀 南加子 (橄欖支部)、
石川 俊 (橄欖支部)、佐伯 英治 (橄欖支部)

東京都獣医師会からの演題申込は以下の通り

【獣医公衆衛生学会】

なし

【産業動物獣医学会】

なし

【小動物獣医学会】

① 大坂 文也(ライフメイト動物病院グループ)

Locked cervical facets の小型犬3症例

② 磯野 新(日獣大・小滝橋動物病院)

尺骨早期閉鎖に伴う橈尺骨の骨形態異常に対し、矯正骨切術を行ったミヌエット
2症例

③ 高橋 賢一郎 (西馬込動物病院)

FIP 治療における高容量モルヌピラビル服用の効果と副反応の検討

④ 長弘友加里(日本獣医生命科学大学)

小型犬の膝蓋骨内方脱臼罹患膝関節に対する大腿膝蓋関節の再建における術前の

腿四頭筋長／大腿骨長比 (QML/FL) 評価の有用性

⑤ 木村 太郎(動物外科診療室東京)

Zurich Cementless Hip Replacement Mini System による股関節全置換術の 4 kg 未満の小型犬 10 症例における長期成績

⑥ 中條哲也(ONE どうぶつ整形外科センター東京)

犬の膝蓋骨内方脱臼の外傷性悪化に関する Pilot Study

⑦ 日野義嗣(小滝橋動物病院グループ)

両側モンテジア骨折において整復後に破綻を繰り返した猫の 1 例

⑧ 網嶋龍 (小滝橋動物病院グループ)

人の門脈重複に類似するまれな門脈奇形を CT で同定した猫の 1 例

⑨ 山本 宇 (小滝橋動物病院グループ)

尺骨遠位成長板早期閉鎖に対し 3D プリンタ骨モデルを用いて矯正骨切りの術前計画を立てた犬の 1 例

⑩ 森淳和(ONE for Animals 東京・横浜・千葉)

Patellar fracture and dental anomaly syndrome (PADS) を疑う猫の膝蓋骨をプレート固定した 2 例

発表演題の内、長弘友加里先生(日本獣医生命科学大学)が発表された「小型犬の膝蓋骨内方脱臼罹患膝関節に対する大腿膝蓋関節の再建における術前的大腿四頭筋長／大腿骨長比 (QML/FL) 評価の有用性」が、小動物学会 A において地区学会賞を受賞し、獣医学術学会年次大会 仙台国際センター (1/24～26) にて発表を行った。

オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：福岡 (10/13)

カ. 他府県獣医師会：川崎市獣医師会主催 神奈川県下獣医師会及び東京都獣医師会合同会議 (3/20・21)

井上亮一氏 旭日雙光賞受賞記念祝賀会 (2/18)

キ. 家畜衛生防疫対策事業関係：

産業動物委員会 瑞穂町 (3/14)

ク. その他：

優等卒業生の表彰 日本獣医生命科学大学 令和 6 年度学位授与式 (3/6)

東京農工大学 謝恩会 (3/25)

(2) 国際交流関係：

FASAVA2024(アジア小動物獣医師会大会)マレーシアクアラルンプール (7/19～21)

FAVA2024(アジア獣医師会連合大会)韓国テジョン (10/24～26)

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等事業：

・学校飼育動物獣医師養成講座 計 3 回実施

・令和 6 年度獣医公衆衛生学術振興事業・狂犬病対策検討委員会合同講習会

「世界の狂犬病についてのトピックスと日本の狂犬病について振り返る」

ビジョンセンター西新宿(2/9)

講師：井上智先生、佐藤克先生

- ・東京都医師会・東京都獣医師会合同開催講習会 東京都医師会館講堂 (2/28)
「人と動物のワンヘルス～動物と共に健康寿命を延ばすには～」
講師：五箇公一先生、谷口優先生、西田伸一先生（東京都医師会理事）

イ. 支部学術講習会の計画等：

品川・大田・東京中央獣医師会合同学術講習会『犬猫の糖尿病についての最新治療』(11/10)

ウ. 催事：

第1回合同就職説明会 対面形式 TIME SHARING 新宿(10/12)

- ・参加病院数 17 病院 病院ごとにテーブルにて面談形式
- ・参加学生数 獣医学生 10 名 動物看護学生 37 名

第2回合同就職説明会 オンライン形式 (3/23・3/24)

- ・参加病院数 16 病院 1 病院 8 分程度のプレゼンテーション
- ・参加学生数 獣学生 7 名 動物看護学生 20 名
- ・求人募集掲載（ホームページの特設ページ） 13 病院

4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・第17回動物介在教育・療法学会 特定非営利活動法人動物介在教育・療法学会
- ・2024年「ヒナを拾わないで」キャンペーン 野生動物救護獣医師協会
- ・第26回日本臨床獣医学フォーラム年次大会2024 JBVP
- ・第26回全国学校飼育動物研究大会 全国学校飼育動物研究会
- ・防災ワークショップ「災害からペットを守る」 公益財団法人日本動物愛護協会
- ・FASAVA2024 マレーシアクアラルンプール大会参加ツアー 株式会社南海国際旅行
- ・FAVA2024 韓国テジョン大会参加ツアー 株式会社南海国際旅行
- ・第109回日本獣医麻酔外科学会学術集会 日本獣医麻酔外科学会
- ・よみうりカルチャー公開講座「ネコ学(にゃんこロジー) 読売・日本テレビ文化センター
- ・第2回オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ

【協賛】

- ・インターペット2024 東京ビックサイト (2024年4/4～4/7)

【共催】

明治安田生命保険との包括連携協定「人と動物の共生を通じた健康増進・地域創生」によるイベントを共催

- ・長寿犬猫表彰の表彰状用フレームの提供と対象犬猫の写真を用いたオリジナルアクリルブロック進呈。表彰状申請数：183 病院 2,557 件 オリジナルアクリルブロック申請数：126 病院 384 件
- ・本会会員への特典提供 ルミネ the よしもと、サッカーチケット贈呈

5. 表彰など

(1) 公益社団法人東京都獣医師会会長表彰状 第13回総会後の祝賀会にて表彰 (6/16)

<A 会員>

木庭 敏也（世田谷支部）、山田 武喜（墨田支部）、金原 正雄（中央支部）、湯地 俊郎（目黒支部）

- (2) 公益社団法人東京都獣医師会会長感謝状 第13回総会後の祝賀会にて表彰(6/16)
岩崎 脩(多摩西支部)、植松 一良(多摩西支部)、川口 悠爾(北支部)、
岡崎 昭彦(北支部 支部長)
- (3) 公益社団法人東京都獣医師会特別感謝状 第13回総会後の祝賀会にて表彰(6/16)
ジャペル株式会社、株式会社クレディセゾン、セバ・ジャパン株式会社、物産アニマルヘルス株式会社、明治安田生命保険相互会社、サンアイビス株式会社、森久保CAメディカル株式会社、東京都獣医師会霊園協会
- 他、第13回総会後の祝賀会では、令和5年度関東・東京合同地区獣医師大会で表彰された獣医事功績者も表彰された。

6. その他

(1) 賛助会員ミーティング

2024年12月2日(月)午後2時より、品川のビジョンセンター品川にて、令和6年度第1回賛助会員ミーティングが開催された。賛助会員69名が出席した。まず、本会の事業報告、各リーダーからの分科会報告がなされた。その後、8社の賛助会員からのプレゼン発表がなされた。ミーティング終了後、場所を移して、本会勝島支部がある大井競馬場「ダイヤモンドターン」にて情報交換会が開催され、賛助会員63名が参加し、午後7時を以て終了した。

(2) その他

・ウクライナ避難者の同行動物への診療対応

農林水産省、日本獣医師会の要請により、2022年6月から本会会員の協力による獣医療支援を実施。支援に係る費用は日本獣医師会が全国の獣医師会から集めた支援金から支出している。2024年に関しては、多摩西支部(犬1回)、北支部(犬7回)の診療対応を行い、継続支援中である。

・能登半島地震動物救護活動等への支援について

地震が発生した令和6年元旦から、日本獣医師会危機管理室の要請により支援の検討を開始し、本会から現地対策本部へ定期的な人員派遣を行い、現地対策本部の立上げ業務をサポートした他、現地対策本部の事務運営支援や関係機関との連絡調整、情報提供などの運営サポートを継続実施した。また、9月に発生した土砂災害により重ねて被害を受けた輪島市内の状況調査を行った。

・大船渡市山林火災による避難状況の調査について

今後の災害発生時の支援活動の検討時に参考とするため、令和7年2月26日に発生した大船渡市山林火災の避難状況につき、現地調査を実施した。

・災害発生時の互助システムについて

大規模災害発生直後、本部⇄支部間の災害対応体制が整うまでの間、近隣の会員同士が互助により支えあう仕組みを構築するために、賛助会員の協力を得て、被害状況が相互に確認できるシステム等を開発中であり、間もなく試行を予定している。

また、会員が普段使い慣れているLINE(LINE WORKS)を用いた連絡網の整備についても互助システムの一環として開発を進めている。

7. 本会組織の会員状況

本会組織の会員状況

令和6年度末会員数は、A会員名573名、B会員438名、計1,011名である。

年度内の入会は33名、退会63名（逝去6名含）、長寿会員56名のうち、会費免除高齢会員51名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A会員			B会員			計		
	6年度 会員数	5年度 会員数	増減	6年度 会員数	5年度 会員数	増減	6年度 会員数	5年度 会員数	増減
中央	27	28	△1	12	11	1	39	39	0
文京	12	14	△2	1	2	△1	13	16	△3
新宿	17	17	0	14	9	5	31	26	5
中野	13	14	△1	1	1	0	14	15	△1
杉並	39	39	0	13	12	1	52	51	1
世田谷	53	56	△3	35	41	△6	88	97	△9
渋谷	8	8	0	1	1	0	9	9	0
目黒	21	21	0	8	9	△1	29	30	△1
大田	37	39	△2	12	13	△1	49	52	△3
品川	17	19	△2	6	6	0	23	25	△2
勝島	6	6	0	2	2	0	8	8	0
江東	16	19	△3	0	0	0	16	19	△3
墨田	16	17	△1	2	2	0	18	19	△1
城北	21	21	0	0	0	0	21	21	0
葛飾	21	20	1	1	1	0	22	21	1
江戸川	21	21	0	7	7	0	28	28	0
足立	15	16	△1	1	1	0	16	17	△1
北	7	8	△1	0	0	0	7	8	△1
豊島	14	14	0	1	1	0	15	15	0
板橋	9	11	△2	2	2	0	11	13	△2
練馬	31	32	△1	8	7	1	39	39	0
武蔵野三鷹	12	10	2	2	2	0	14	12	2
北多摩	30	31	△1	6	3	3	36	34	2
多摩東	22	22	0	1	1	0	23	23	0
南多摩	13	14	△1	2	3	△1	15	17	△2
八王子	16	19	△3	2	0	2	18	19	△1
町田	20	19	1	1	1	0	21	20	1
多摩西	39	39	0	4	5	△1	43	44	△1
小計	573	594	△21	145	143	2	718	737	△19

職域	B会員		
支部	6年度 会員数	5年度 会員数	増減
農水省	2	2	0
動薬検	0	0	0
都産労	5	6	△1
都公衆衛生	22	23	△1
東大	11	13	△2
農工大	18	15	3
日獣大	29	30	△1
生物医学	15	17	△2
日生研	4	5	△1
松研	2	2	0
中央競馬	2	2	0
共済	8	8	0
動物薬事	28	27	1
かんらん	147	154	△7
小計	293	304	△11
B会員計	438	447	△9

令和6年度 会員数	A会員	B会員	合計
	573	438	1011

東京都獣医師会総会員数			
	R6年度	R5年度	増減
総計	1011	1041	△30

II 事業実施報告

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

東京都医師会・東京都獣医師会合同開催講習会 東京都医師会館 (2/28)

「人と動物のワンヘルス～動物と共に健康寿命を延ばすには～」

講師：五箇公一先生、谷口優先生、西田伸一先生（東京都医師会理事）

受講者数：54名

2. 狂犬病予防対策推進事業

狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。令和6年度集合注射における接種頭数は70,901頭の実績となった。令和5年度比 118.2%、10,894頭増加となった。

万が一の発生時には早期探知が行えるよう狂犬病に関する知識の普及・啓発事業を推進し、併せて発生予防を図り、もって公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

2ーア. 都民に対する狂犬病に関しての情報提供と周知；

本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性について啓発活動を継続実施した。

2ーイ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。また、狂犬病支部担当者会議において、各支部における課題を共有し、今後の啓発活動における情報交換の場を設けた。

2ーウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病支部担当者会議・講習会が、2025年2月9日（日）午後3時より、ビジョンセンター西新宿にて開催された。各支部長又は狂犬病担当者（49名）が参加した。担当者会議では集合注射事業に係わる様々な課題やインボイス制度導入に伴う消費税の説明がなされた。その後の講習会では、狂犬病対策検討委員会と人と動物の共通感染症対策検討委員会の合同講習会として開催され「世界の狂犬病についてのトピックス」というタイトルで、井上智先生（国立感染症研究所）が講演され、「日本の狂犬病について振り返る」と題して、佐藤克先生（東京都獣医師会板橋支部）が講演された。講習会には、本会所属の獣医師に加え、行政機関や大学、研究所に所属する獣医師の参加があった。

2ーエ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

令和6年度においても集合注射を中止する自治体があった。27地域支部のうち狂犬病予防定期集合注射を実施したのは26支部であり、中止した自治体は2自治体となった。予防接種実施

時に、飼育者に対する啓発を行い、そして地方自治法施行令第158条の規定に基づき行政事務を受託し動物病院での登録受けおよび注射済票交付などを通じ、飼い犬の登録率および狂犬病予防注射の接種率を向上せるよう努めた。

本部では、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」の傷害見舞費用保険を案内し、B会員についても加入が可能であることを改めて案内した。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

令和6年度は実施していない。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内には災害、人と動物の共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的かつ速やかに実施するために、都が開催する防災担当者会議等にオンラインや書面にて参加した。9月1日(日)、東京都・板橋区合同総合防災訓練については、板橋支部会会員と共に参加を予定していたが、台風により中止となった。

平時においては、有事を想定して、安否確認システムにより9月1日と3月11日に会員の安否確認訓練を実施した。また、安否確認メール未達対策のため毎月1日（令和6年11月から毎月15日変更）にテスト送信を実施している。

東京都獣医師会オリジナルの防災パンフレットを作成し、イベント集客用のノベルティグッズ（安否確認ホイッスル）と共に希望する支部に提供した。

7月30日(火)、能登半島地震での活動報告を兼ね、東京 VMAT 運営委員会をZoomにて開催し、今後の活動に関し意見交換が行われた。

3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ対策情報や発生情報等を都度発信し、公衆衛生対策の向上および公共の健康福祉増進に寄与した。感染症対策セクションより以下の情報について、支部長連絡および一斉メールでの周知並びに本会HPでの公開を行い、正しい情報の周知に努めた。

- ・「米国の乳牛における高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）への感染事例報告」（4/5）
- ・「ヒトへの狂犬病感染の主要原因は、子犬からの感染という報告（フィリピンの3年間の前向き患者登録研究より）」（8/14）
- ・「国内では初めてとなるランピースキン病（牛）の発生報告」（11/12）
- ・「都内での犬のレプトスピラ症の感染確認報告」（11/25）
- ・「米国における猫の高病原性鳥インフルエンザ感染事例報告」（12/26）

- ・「千葉県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認報告」(1/16)
- ・「韓国における口蹄疫の発生について」(3/6)

4. 獣医公衆衛生対策推進事業

4 - ア. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。

①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④コリネバクテリウム感染症 ⑤犬ブルセラ症（犬のみ）⑥トキソプラズマ症（猫のみ）については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取した。

結果として令和6年度においては、20病院の診療頭数（犬65,885頭、猫37,250頭）の内、①皮膚糸状菌症（犬3頭、猫43頭）、②疥癬（犬2頭、猫0頭）、③回虫症（犬5頭、猫19頭）、④コリネバクテリウム感染症（犬3頭、猫1頭）、⑤犬ブルセラ症（犬のみ・0頭）、⑥トキソプラズマ症（猫のみ・0頭）の合計 犬13頭、猫63頭の陽性検体が確認された。

また、腸管出血性大腸菌（EHEC）、薬剤耐性大腸菌、SFTSウイルスについては、協力病院の内、6病院によりサンプリングを行った。SFTSウイルスについては、月に1検体3か月（9月～11月）6病院18検体すべて陰性であった。検査に当たっては富士フィルムVETシステムズ株式会社と東京都健康安全研究センターの協力を得た。

4 - イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

「獣医公衆衛生学術振興事業（東京都補助）」により以下の2事業を実施したほか、獣医公衆衛生に係る関係官庁等からの公示、通知等の情報を本会ウェブサイト及び東獣ジャーナルを通じて会員等に迅速に広報を行った。

① 学術講習会の開催

狂犬病についての講習会を狂犬病対策検討委員会との合同で開催し、改めて獣医療関係者に注意喚起を図った。

開催日時：2024年2月9日（日）15:00～17:00

開催場所：ビジョンセンター西新宿

内容：「世界の狂犬病についてのトピックス」と「日本の狂犬病について振り返る」

講師：井上智先生(国立感染症研究所)、佐藤克先生(板橋支部)

② 「人と動物の共通感染症ガイドライン Web 版」の増補改訂

本会 HP に掲載中の「人と動物の共通感染症ガイドライン Web 版」を令和5年度に続いて増補改訂し、新規感染症（3 疾病）、ウイルス感染症（14 疾病）、リケッチア・クラミジア感染症（4 疾病）、真菌感染症（2 疾病）、寄生虫病（原虫病を含む）（6 疾病）を中心に最新情報に改訂し 参考資料編の更新等を行い公開した。獣医療関係者及び広く都民に人と動物の共通感染症の知識の普及啓発を図った。

5. 学校動物飼育対策推進事業

小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

5ーア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説に示された通り、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を、支部委託事業として都内全域において行った。

行政などから依頼のあった学校及び教育委員会に対して本会から講師を派遣した。

講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導や児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる情報提供に努めた。

5ーイ. 学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

【内 容】

会 場：ビジョンセンター西新宿

会 費：第1部無料、第2部有料（会員2,000円／非会員3,000円／学生 無料）

開催形式：会場（対面）、見逃し配信（年度末に3回分まとめたの配信）

第1回 2024年9月8日（日）14：00～17：00

第1部：「生活科における飼育活動と資質・能力の育成」

講師：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 齋藤 博伸先生

第2部：「ウサギについて」

講師：田向 健一先生 田園調布動物病院院長

当日会場参加者 22名

第2回 2024年11月17日（日）14：00～17：00

第1部：「学校教育の活性化を促すコミュニティスクールの運営における地域社会との連携」

講師：木村 俊二先生 前東京都西東京市教育委員会

第2部：「チャボについて」

講師：小嶋 篤史先生 鳥と小動物の病院リトルバード

当日会場参加者 15名

第3回 2025年2月2日（日）14：00～17：00

意見交換会

・ファシリテーター

宮下めぐみ理事

・アドバイザー

田向健一（東京都獣医師会大田支部 田園調布動物病院）

小嶋篤史（東京都獣医師会世田谷支部 鳥と小動物の病院リトルバード）

取組報告

- ・中野区立上鷲宮小学校・・・鴻 尚義先生（中野支部）
- ・小平市立第九小学校・・・山口 匠先生（北多摩支部）
- ・八王子市立宇津木台小学校・・・黒田 昌幸先生（八王子支部）

当日会場参加者 20名

5-ウ. 動物飼育作文コンクール；

品川支部の事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行った。優秀作品を上野会長より表彰した。

5-エ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、該当する地域支部の会員の協力を得て、都内5つの推進校（中野区立上鷲宮小学校・小平市立第九小学校・渋谷区立幡代小学校・八王子市立宇津木台小学校・青梅市立第七小学校）において、生徒と担当教師を対象とし、①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。

また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し今後の継続的な取り組みのための礎とした。事業が継続されることにより、各学校ともに学習指導要領に則った飼育（1、2年生による継続飼育）実践方法の研究がなされるようになった。

5-オ. 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、108校・123件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

6. 動物愛護啓発事業

6-ア. 催事における啓発事業；

日本獣医師会が主催する全国動物愛護週間中央行事・日本獣医師会主催「2024 動物感謝デー in Japan” World Veterinary Day”」は、9月21日（土）に駒沢オリンピック公園にて開催された。本会は動物救護所と併せ、小笠原自然環境保護事業のPRと本会ワンヘルス普及啓発委員会の企画により、「ワンヘルス〇×クイズ」を実施し、ワンヘルスのリーフレットとノベルティ（絆創膏）を配布した。

適正飼育支援の一環として15歳以上の犬猫を対象とした長寿犬猫表彰を行った。令和6年度は183病院、2,557件の申し込みがあり、表彰状と併せて、協賛の明治安田生命より表彰状用額縁がプレゼントされ、更に希望者にはペットの写真・名前が入れられるオリジナルアクリルブロックの配布を行った。オリジナルアクリルブロックについては126病院 384頭の申請があり、贈呈された。

『動物のいのち救済基金』募金総額は13,875,936円（2025年3月31日現在）であり、『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災BOOKをイン

ターネットにて継続して配布した。

6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

令和6年度の御蔵島からの猫の保護・譲渡実績は9頭であった。

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」オンライン開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者支援活動事業

令和6年度分の「身体障がい者補助犬診療券」の交付は行わず、事業の継続方法・募金方法について見直しを行った。会員には「ひかりの箱募金」は現在の募金箱での募金停止を広報していたが、一部周知が行き届いていなかったこともわかり、令和6年度においても引き続き募金回収を行い、令和6年度に回収された募金額は1,216,159円（2025年3月31日付）であった。ついては、これまでの募金を原資とし、令和7年度に利用可能な「身体障がい者補助犬診療券」3万円×150頭分を発行し、東京都福祉保健局より都内居住の身体障がい者の方々へ送付いただくこととした。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

10. 小笠原自然環境保護活動事業

小笠原諸島に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、本会会員の協力の下、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行っている。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認されたが、母島などに生息している、日本固有種のオガサワラカワラヒワの生息数が400個体以下と絶滅の危険性が高くなっていることが明らかになった。その為、母島でのノネコの捕獲を強化する必要性が指摘されており、本会においても、これまでと同様にノネコの引き受け・譲渡を推進した。

10-ア. 保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施

した(令和6年度40頭、累計捕獲頭数1,241頭うち都内搬送頭数1,129頭)。

東京都からの委託事業「ノネコ搬送に伴う感染症対策等委託」においては、令和5年度から1頭当たり67,000円に委託費が増額されている。

10-イ. 小笠原諸島現地視察活動事業；

令和6年度は実施せず

10-ウ. シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業

東京都の委託を受け、都民によって動物病院に持ち込まれた傷病野生鳥獣について救護、治療活動を実施した動物病院に治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

令和6年度実績は169件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等49件については、動物の命に違いはないことから、保護治療を本会からの助成により実施した。

なお、委託対象外鳥獣においては、令和3年度まではカラス、ドバト、ひな、鳥獣、ペット及び外来種とされていたが、令和4年度からはニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、タヌキ、カラス(ハシボソガラス、ハシブトガラス)、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワウが加えられた。令和5年度には一旦ウミネコが対象外に追加となったが、令和6年度にウミネコは保護対象に戻った。

また、治療後死亡した81件については、会員病院での検案の後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき埋葬した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

- (1) 東京都獣医師育成対策委託事業は、啓発内容をより確実に浸透させていくために、同じテーマで2年連続した企画としており、獣医療コミュニケーションの適正化を取り上げている。令和6年度は「一次診療施設と二次診療施設のコミュニケーション」をテーマとして取り上げ、都内3つの獣医系大学(東京大学、東京農工大学、日本獣医生命科学大学)に、潜在する課題の抽出を目的とした事前アンケートを実施した。これらのデータを元にセミナーを開催し、後日動画を配信した。併せて同セミナーの資料を冊子にし、3月末に都内診療施設1,993軒へ配布した。

日時：12月13日(金)18時～19時30分

場所：日本獣医生命科学大学 B棟 313講義室

講師：伊藤優真先生 藤田道郎先生

参加者人数：11名

- (2) 三学会活動；令和6年度関東・東京合同地区獣医師会連合会大会・三学会が、令和6年9

月 1 日に群馬県高崎市の G メッセで開催された。獣医事功績者表彰として本会からは 10 名の先生の表彰がなされた。また、三学会の小動物学会において 10 名の先生が当日発表をされた。審査の結果、小動物獣医学会 A で、長弘友加里先生（日獣大 原康教授研究室）が発表した「小型犬の膝蓋骨内方脱臼罹患膝関節に対する大腿膝蓋関節の再建における術前
の大腿四頭筋長／大腿骨長比（QML/FL）評価の有用性」が地区学会長賞を受賞し、令和 7 年 1 月 24 日～26 日の日本獣医師会獣医学術学会年次大会（仙台）にて発表した。本会からは、長弘先生の交通費・宿泊費を負担した。

(2) 学術国際交流活動；FASAVA2024(アジア小動物獣医師会大会)マレーシアクアラルンプール（7/19～21）、FAVA2024(アジア獣医師会連合大会)韓国テジョン（10/24～26）が開催され、本会からも会長、担当理事が参加した。

(3) 日本獣医師会による講習会；
実施せず

(4) 支部学術講習会；
品川・大田・東京中央獣医師会合同学術講習会『犬猫の糖尿病についての最新治療』（11/10）が開催された。

13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

(1) 東獣ホームページの充実：

関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報を本会ホームページに掲載するなどして、併せて、HP リニューアルに向け対応した。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：

公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年 4 回刊行（紙媒体 1 月、7 月と Web 媒体 4 月、10 月）し、掲載情報の充実に努めた。また、時流に即した特集を企画し、より読みやすい誌面とするように図るとともに、PC 等で閲覧できるように Web 版を作成した。

【特集】

No.611（2024. 4）Web 版 『東京都獣医師会に競馬場獣医師？ 潜入、勝島支部！』

No.612（2024. 7）冊子版 『愛玩動物看護師法施行から 2 年 現場に起きた変化とは』

No.613（2024. 10）Web 版 『特集 その卵はどこから？ アニマルウェルフェアを考える』

No.614（2025. 1）冊子版 『特集 みんなが知らない 動物病院のリクルート』

(3) 社史の発行：令和 5 年 12 月より、1 年間にわたり、本会 HP において、東京都獣医師会 75 年の歴史について（web 版社史）を公開した。

14. 家畜衛生防疫対策事業

令和6年度産業動物委員会を3月14（金）に開催し、ワクチン接種の推進事業、遠隔診療の導入状況、産業動物獣医療体制確保対策等についての情報・意見交換を行った。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

令和6年度は「一次診療施設と二次診療施設のコミュニケーション」をテーマとして取り上げた。都内3つの獣医系大学（東京大学、東京農工大学、日本獣医生命科学大学）に、潜在する課題の抽出を目的とした事前アンケートを実施した。これらのデータを元にセミナーを開催し、後日動画を配信した。併せて同セミナーの資料を冊子にし、3月末に都内診療施設1,993軒へ配布した。

II. 収益事業及びその他の事業

(1) 不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

(2) 福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

1) 共済給付

- ①弔慰金 18件 ②傷病見舞金 4名 総計12回 ③災害見舞金 0件
- ④結婚出産祝金 4件 ⑤同窓会参加補助費 3件 11名分

2) 旅行保険の加入 なし

3) 無受給退会者への記念品贈呈 12件

(3) 入会促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を配布し、入会を促進した。

また2025年3月7日の日本獣医生命科学大学令和6年度学位記授与式には上野弘道会長が、2025年3月25日の東京農工大学共同獣医学科令和6年度謝恩会には高橋恒彦副会長が出席し、獣医学科優等卒業生を表彰し、併せて獣医師会の活動等に関する情報提供を行い、入会促進を行った。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

組織力強化対策の一環としての新たな取り組みである疼痛管理と麻薬の取り扱い知識向上と併せた入手経路の安定化に向け、業界団体との交渉等を行った。

賛助会員100社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介など、会員特典の充実に積極的に取り組んできた。賛助会員等の協力を得て、以下の会員向けセミナーを実施した。

(4) その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

(5) 事務受託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。